成熟社会と不便のデザイン

藤原　智也
（教育福祉学部 教育発達学科）

現代社会に広く行き届いている近代デザインには、デザインされたものによって人々の問題を合理的に解決していくことで、より便利で安心な社会を創り出すという発想があった。つまり我々の移動や住や生活は、近代デザインによる都市計画や建築やプロダクト製品によって効率化されている。このことで多くの生活労働から開放されて余暇時間は増え、広域に旅行へ出かけたり遠く離れた商品を安価に入手できたりするなどの楽しみが可能になった。しかし、高度化された近代デザインが普及している成熟した現代社会は、デザインの飽和による新たな問題が生じているとも捉えられる。すなわち、かつては自分なりに考えて工夫したり他者との協力や共同によって解決していた問題を、自動化されたデザインが代わりに解決してしまうことで、人々の思考やコミュニケーションの機会が奪われているのではないかという疑問である。このような認識は、これまでのインターネットの普及や今後のAIの発展によって、さらに鮮明になってくるだろう。

Ludwing Hilberseimer
“Project for a High Rise City” 1924

Walter Gropius
“Bauhaus Dessau Building” 1926

Panasonic
“ななめ式全自動洗濯機” 2019

一方で、不便を前提とし、自分なりに考えたり周りの人と共同することで問題を解決していく環境や仕組みをデザインする、成熟社会に適応した新しい発想も生まれている。そこでは、一見非効率のようだが、人々の思考やコミュニケーションを促すことで、それぞれの成長や共生を念頭においたデザインがなされている。

デザインは科学技術の進展を伴って、〈肉体労働→頭脳労働→感情労働〉の順番で、人間からそれらを外部化していく方向性を示している。私たちは、どこまでを自分たちの領域として担うのかそれ自体を主体的にデザインしなければ、思考停止や孤独化に陥りかねない時代を生きている。

マリア・フィルファー通り（ウィーン）
シェアード・スペースの事例

山崎亮 / Studio-L
“有馬富士公園” 2005-

錦二丁目まちづくり協議会他
“都市の木質化プロジェクト” 2011-

画像の参照先

- 【上段】
  - 左・中：Hans M. Wingler, "Bauhaus: Weimar, Dessau, Berlin, Chicago" (The MIT Press), 1969.
  - 右：https://panasonic.jp/wash/
- 【下段】
  - 左(報告書)：名古屋都市センター『シェアード・スペース：生成発展と変遷』NUI レポート(No.026)，2018.
  - 中：http://www.studio-l.org/project/
  - 右：藤原撮影